

第7回詩のまち前橋若い芽のポエム

入賞者と作品を紹介



「第7回詩^{うた}のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が8月29日に行われ、7,500編近い応募の中から入賞作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の3部門で最優秀賞の美^{みさお}棹賞を受賞した作品と入賞者を紹介。賞の贈呈式と朗読会は、11月8日に前橋文学館で行われます。

年々増える応募

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は、全国の小中学生・高校生を対象にした詩のコンクールです。七回目を迎える本年度は、

講評を述べる秋谷選考委員長

三十都道府県から七千四百六十三編もの応募がありました。回を重ねるごとに応募数が増え、作品の質も年々高くなっています。

この中から入賞作品を選考す

るにあたり、推薦委員が予備選考を行い推薦作品を決定。その後、四人の選考委員による本選考で入賞作品が決まりました。

入賞者は90人

入賞作品は、三部門で九十編でした。各部門の入賞者は次のとおりです。敬称略

小学生の部

美棹賞（金賞）＝諸沢怜央（天神小三年） 銀賞＝梅山美里東小六年） 銅賞＝武井美久（桃川小三年） 佳作＝九人 入選＝二十九人

中学生の部

美棹賞（金賞）＝高橋成美（静岡県富士市岩松中一年） 銀賞＝大塚里美（県立二葉養護学校 中学部二年） 銅賞＝田子夏海（東中二年） 佳作＝十人 入選＝二十八人

高校生の部

美棹賞（金賞）＝後藤美里（市立前橋一年） 銀賞＝新井美津穂（前女高一年） 銅賞＝塚越

友美恵（高崎商科大付高一年） 佳作＝二人 入選＝三人

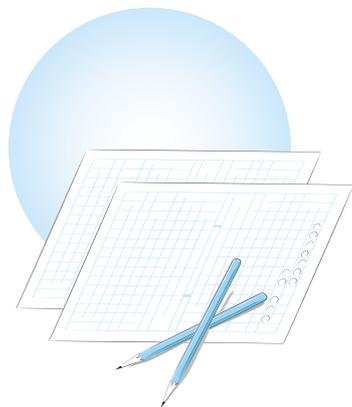
現実を素直に表現

選考委員会終了後の記者会見で、入賞作品の発表後、選考委員を代表して、秋谷委員長から講評がありました。その概要は次のとおりです。

講評のあらまし

「若い芽のポエム」は、若い世代に向けて一つの文化の創造を呼び掛けているものだと思えます。作品一つ一つは、それぞれの作者が、それぞれの心のレンズを持って書かれています。

小学生はすべてが未知の世界だといえますが、子どもでなければ見つけられない今の社会を、幼い自分の視点で、詩として表現していることが大きな特徴です。中学生になると考え方がもっと複雑になって、人間の中、心の内側に入っていくようなところが感じられました。高校生は難しい世代で、進学や就職な



どの問題に直面しながらも、自分たちが生きているんだということが、作品に大きく反映していたような気がしました。

現代の若い世代が今、言葉で自分を表現するには何をどのようにするか、このことを日本の現代社会に訴えるためには、「若い芽のポエム」は大きな意義があります。今回の特色は小学生、中学生、高校生を問わず、今直面している生きている自分の中の現実を、それぞれの中でとらえ、作品として表現し、社会に訴えていることです。

贈呈式と朗読会

第7回若い芽のポエム贈呈式

日時＝11月8日 午後1時～1時40分 会場＝前橋文学館

朗読会

日時＝11月8日 午後1時40分～3時30分 会場＝前橋文学館
内容＝入賞者と選考委員・推薦委員、一般参加希望者の詩の朗読